

## 成果と課題

### 成果

#### ○思考パターンの系統性の確立

学習リーダーを中心とし、児童が自ら学ぶ形をつくることができた。

- ①文を読むことを先ず個人で、次に全体で行い、聞かれていることを求める。
- ②分かっていること・求めること（聞かれていること）などを文を読んで見つける。
- ③自分の言葉でワークシート（ノート）に書く。
- ④自分の力で問題を解く。
- ⑤考えを発表し、お互いの考えを比較する。
- ⑥いろいろな考えを認め合う。

#### ○書く力の向上

- ・筋道立てて、論理的に考える手だてとして、書く形を学年を通して揃えた。  
「まず」 → 「次に」 → 「そして」、「だから」
- ・文章で自分の考えを書くとともに、図や絵を用いてわかりやすく表現した。

#### ○思考力の向上

- ・具体物、絵、図などを活用した算数的活動を通してしっかりと考えるなど、考える態度にも、積極性が見られるようになった。

#### ○発表力の向上

- ・筋道立てて、論理的に考えたことをワークシート（ノート）に書くことにより、発表の仕方が上手になった。また、いろいろな考えを言えるようになった。

#### ○現教部会等における研修の活性化

- ・指導案の形式を時間をかけて話し合い、統一したものを作成した。
- ・指導と評価の一体化を図り、単元における児童に身に付けさせたい力を絞り、目標を明らかにすることで、何を指導するべきかがよく分かった。
- ・教材研究にも時間をかけ、ワークシートや授業に使う具体物なども教員全員で考えることが出来た。お互いのアイデアを共有することで、教材を工夫することができた。
- ・授業後のK J法による話し合いは、活発に意見が出され、成果と課題がよく分かるものになった。

### 課題

#### ○同時間接の指導において

- ・同時間接を進めているが、この形態では子どものつぶやきを聞き逃すこともあるため、改善する工夫も考えていかなければいけない。

#### ○考える時間の確保

- ・自分の考えを持つことやワークシートやノートに自分の考えを筋道立てて書けるようになるには時間がかかる。毎時間できないが、辛抱強く指導する時間の確保や工夫が必要になる。

#### ○研究の進め方の意思統一

- ・年度初めに算数の研究の進め方を全員で協議して意思統一を図り、同じ考えのもとで研究を始めることが大切である。

